

# 然

四年 12  
 筆順 クタ 歠 歠 然  
 オン ゼン・ネン  
 ク

成り立ち



「犬」と、「肉」の意味の「𤝵」と、「火がもえる」意味の「灬」とを組み合わせて作った字です。

「犬の肉をやく」ことを表した字で、今の「燃(5年795)」（もえる）の本の字です。

むかしは、野犬を見れば、「必ずそれを食用にするためにやいたので、「必ずそうする」ことを「必然」といいました。それで、「そうする」「そうなる」という意味に使われるようになりました。〔例〕天然(天がそうする)、自然(自ずからそうなる)、偶然(偶々そうなる)。

また、ある文字につけて、その意味を助けるために使います。〔例〕驕然、雑然、整然、泰然、平然、決然。

使い方

▽あんなにむだな使い方をしているのは、天然資源が減ってしまうのも当然です。自然をもっと大切にしましょう。

熟語例

▽天然(天がそうすること。自然にそうなっていること。「この山頂から、天然の美観がながめられる」などというふうには、つかいませぬ。)

▽自然(自ずからそうなること。人の手が加わっていない、ありのままの状態をいいます。また、人間の社会とは別な、ありのままの天地万物のことをもいいます。「都会を離れて、自然の中で呼吸をすると、気持ち安らぐ」などというふうには、つかいませぬ。)

▽偶然(たまたまそうなること。「きのう、偶然、友だちと本屋で出会った」などというふうには、つかいませぬ。)

▽驕然(驕がしいようす。「事故が起きたらしく、あたりは驕然としていた」などというふうには、つかいませぬ。)

▽雑然(ものがちらばったりして、きれいに片づいていないようす。「雑然とした机の上」などというふうには、つかいませぬ。)

使い方

▽世界の何か所かで、戦争が行われています。土地や権利などをめぐって、争っているのです。人間の心の中には闘争心というものがああります。闘争心にも、よい性質のものと悪い性質のものがああります。人を不幸にする争いは、絶対にやめなければいけませんね。

熟語例

▽戦争(武力を用いて、争うこと。特に国と国とが武器をもつて戦うことをいいます。)

▽闘争(争い闘うこと。「動物は闘争本能を持っている」などというふうには、つかいませぬ。)

▽紛争(もつれて争うこと。もめごと。「国際紛争があちこちで起こっている」などというふうには、つかいませぬ。)

▽論争(議論し争うこと。意見の違う人同士が、互いに自分の説を主張して争うこと。「どちらが正しいか、論争になった」などというふうには、つかいませぬ。)

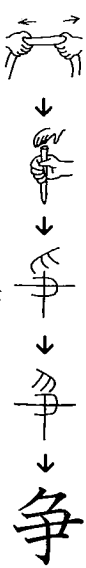
▽競争(どちらがすぐれているかとか、どちらが強いとかを、争うこと。)

▽争奪(争って奪い合うこと。「優勝カップの争奪戦」などというふうには、つかいませぬ。)

# 争

四年 6  
 筆順 ヌウ 争 争  
 オン ソウ  
 3 あらそウ

成り立ち



手の形を表した「𠂇」の変化した「𠂇」と、「手に物をにぎった形を表した「尹」とを組み合わせて作った字です。

「人が手に持っている物をうばおうと、手を出した」形を表した字で、「うばい合う」こと、「あらそう」ことを表したものです。

〔旧字体の「争」によって解いたが、今の形の「争」に従い、「𠂇(負3年411)」と「尹」との会意字と解いてもよいと思う。「𠂇」は人の形を表した部首であるから「人が所有している物に手をかけて奪おうとしている形」と解くのである。〕